

## EU における CEFR 改訂の最新動向について

### On the latest trend of the CEFR revision in the EU

根岸 雅史  
Masashi Negishi

東京外国語大学大学院総合国際学研究院  
Tokyo University of Foreign Studies (3-11-1, Asahi-cho, Fuchu-shi, Tokyo 183-8534, Japan)

**要旨:** 2001 年に出版された CEFR が、16 年ぶりに改訂され、Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment: Companion volume with new descriptors. Provisional Edition. として、昨年公開された。本稿では、まず、この companion volume における改訂の全体像を概観している。今回の改訂では、2001 年版の Can Do ディスクリプタにあった、母語話者への言及が削除されている。この他には、青天井だった C レベルの Can Do ディスクリプタの修正や Pre-A1 の追加がある。次に、今回の改訂の中心となった mediation (媒介) についての改訂プロジェクトについて報告している。このプロジェクトの結果、mediation のカテゴリーごとの尺度化された Can Do ディスクリプタが提示されている。さらに、今回の改訂で新たに加わった Can Do ディスクリプタの 1 つである、オンラインの複数モードに関わる Can Do ディスクリプタを紹介している。最後に、今回の改訂で、その記述がより充実した「プロフィール」という概念について、具体例を挙げて説明して、その概念の持つ意味を論じている。

**キーワード:** CEFR、改訂、ディスクリプタ、媒介、プロフィール

**Keywords:** CEFR, revision, descriptors, mediation, profile

#### 1. CEFR 改訂の背景

Council of Europe を中心に Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment (CEFR) の改訂が行なわれてきました。これはかなり大きなプロジェクトなので、私たち外部の人間が、その全貌を把握するのはなかなか難しいことです。CEFR に関する資料は、ネット上には、Council of Europe による「公式」のものから研究者などの様々な個人によるものまで山のようにありますが、これらすべてに目を通すことは、実践者はもちろん研究者であっても不可能でしょう。したがって、ここでの報告も包括的な報告とは言えないことを、ご了承ください。

CEFR は 2001 年に出版されたので、それから 17 年が経っています。この本を作った人たちは主に 4 人いて、そのうちの代表的な一人は Brian North 博士です。彼は、主に Can Do ディスクリプタのスケールリング、つまり、ディスクリプタの困難度を算出して尺度の上に乗せ、レベルごとに切っていくという作業を中心的に担っていました。

CEFR-J の科研の最終報告会に彼を招いた際に、私は懇親会で「CEFR の改訂は、誰がいつどのようにやるのか」と質問しました。2001 年のバージョンには、Can Do ディスクリプタの中に、例えば public telephone と書いてありますが、今日公衆電話をかける人はほとんどいません。公衆電話のかけ方の指示が読めるとかいう Can Do ディスクリプタがあっても、そもそもその指示を見つけることができません。こうした Can Do ディスクリプタはどうするのかと尋ねたのです。

すると、彼は「そもそも改訂するかどうかというのが非常に難しい」と。ケンブリッジ大学にいらっ  
 しゃった John Trim という先生ももう一人の中心的な方ですが、2013 年に亡くなってしまっています。  
 あのような形で出来上がったものを誰がいつどのように改訂するのかというのは、結構やっかいなこと  
 だ。」と言っていました。さらに、「CEFR の改訂は、パンドラの箱みたいなもので、改訂するので意見  
 下さい」というと、世界中からここはこうしろ、あそこはこうしろみたいな声が来てしまうので収集がつか  
 なくなってしまう。かといって、今のままでいいわけではない。世の中の変化への対応とか、新しい  
 研究成果の反映とかをどうするかというのが非常に難しい。」と言っていました。

## 2. CEFR はどう変わったか

### 2.1. 修正の全体像

今回の報告に向けて最新動向を色々調べているまさにその最中に、偶然 Brian North からメールが来ま  
 した。Common European framework of reference for languages: Learning, teaching, assessment: Companion  
 volume with new descriptors. Provisional Edition.が出たという知らせでした。「改訂」ではなく、Companion  
 Volume にしたということは、今までの CEFR に Companion Volume として追加した、ということです。  
 しかもこれが、Provisional Edition と書いてあり、これはなかなか珍しいと思います。Provisional Edition  
 ということは、今後色々修正の余地があるかもしれないということを示唆しています。現状では、pdf  
 のみでのネット上での公開にとどまっています。本稿では、2001 年度版とこの Companion Volume を合  
 わせて「改訂」と捉えることとします。

この Companion Volume では、2001 年のスケールをアップデートしています。この Companion Volume  
 は、以下に、“the approach taken was to supplement the 2001 set rather than change descriptors in it. There are,  
 however, proposed changes to a small number of descriptors in the scales from CEFR Chapters 4 and 5.” (Council  
 of Europe, 2017; 45)とあるように、ディスクリプタの変更というよりは、2001 年のセットの補充を主に  
 目指していると言った方がいいのでしょうか。

CEFR はネイティブスピーカー・モデルではないと言ってきましたが、それがより明確になりました。  
 他の多くの能力尺度では、最上位がネイティブスピーカーになっていますが、CEFR はそうでは  
 ありません。巻末には、修正一覧があります (表 1 参照)。現在の pdf 版では、修正された部分は「取り  
 消し線」が引かれていて、修正案は赤字となっていますが、本稿では、この部分は網掛けにしてありま  
 す。2001 年のところのディスクリプタは、例えば Overall Listening Comprehension でいうと、もともとは、  
 “Has no difficulty with any kind of spoken language, whether live or broadcast delivered at fast native speed”でし  
 たが、“Has no difficulty with any kind of spoken language ...”の部分を“can understand with ease virtually any  
 kind of spoken language ...”というふうに修正するとか、“at fast native speed”の部分を“at natural speed”に修  
 正しています。次の “conversation between native speakers”という部分の native という単語を削除していま  
 す。

実際 CEFR の C レベルのディスクリプタを見ても、それを母語でできる話者がいるかということ、そう  
 でもありません。難しいことを全くの素人にもわかりやすく話すとかいうのは、大学の教員でも皆が持  
 っているとは言えないし、難しいことを面白く話せるとかも、誰でもできることではないでしょう。ネ  
 イティブスピーカーなら自動的に C のレベルですよということではない、というのを改めて明確にして  
 います。

表 1. Appendix 7 – List of changes to specific 2001 Descriptors (Council of Europe, 2017; 217)

	OVERALL LISTENING COMPREHENSION
C2	Can understand with ease virtually <del>Has no difficulty with</del> any kind of spoken language, whether live or

	broadcast, delivered at fast <del>native</del> <b>natural</b> speed.
	UNDERSTANDING CONVERSATION BETWEEN OTHER <del>NATIVE</del> SPEAKERS
<b>B2+</b>	Can keep up with an animated conversation between <del>native</del> speakers <b>of the target language</b> .
<b>B2</b>	Can with some effort catch much of what is said around him/her, but may find it difficult to participate effectively in discussion with several <del>native</del> speakers <b>of the target language</b> who do not modify their <b>language speech</b> in any way.
	LISTENING AS A MEMBER OF A LIVE AUDIENCE
<b>C2</b>	Can follow specialised lectures and presentations employing <del>a high degree of</del> colloquialism, regional usage or unfamiliar terminology.
	OVERALL READING COMPREHENSION
<b>C2</b>	Can understand <del>and interpret critically</del> virtually all forms of the written language including abstract, structurally complex, or highly colloquial literary and non-literary writings.
	OVERALL SPOKEN INTERACTION
<b>B2</b>	Can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction, and sustained relationships with <b>speakers of the target language</b> <del>native speakers</del> quite possible without imposing strain on either party. Can highlight the personal significance of events and experiences, account for and sustain views clearly by providing relevant explanations and arguments.
	UNDERSTANDING <del>A NATIVE SPEAKER AN</del> INTERLOCUTOR
<b>C2</b>	Can understand any <del>native speaker</del> interlocutor, even on abstract and complex topics of a specialist nature beyond his/her own field, given an opportunity to adjust to a non-standard accent <del>or dialect</del> .
	CONVERSATION
<b>B2</b>	Can sustain relationships with <b>speakers of the target language</b> <del>native speakers</del> without unintentionally amusing or irritating them or requiring them to behave other than they would with another <del>native</del> proficient speaker.
	INFORMAL DISCUSSION (WITH FRIENDS)
<b>B2+</b>	Can keep up with an animated discussion between <del>native</del> speakers <b>of the target language</b> .
<b>B2</b>	Can with some effort catch much of what is said around him/her in discussion, but may find it difficult to participate effectively in discussion with several <del>native</del> speakers <b>of the target language</b> who do not modify their <b>language speech</b> in any way.
	FORMAL DISCUSSION (MEETINGS)
<b>C2</b>	Can hold his/her own in formal discussion of complex issues, putting an articulate and persuasive argument, at no disadvantage to <del>native other</del> speakers.
	INTERVIEWING AND BEING INTERVIEWED
<b>C2</b>	Can keep up his/her side of the dialogue extremely well, structuring the talk and interacting authoritatively with <del>complete effortless</del> fluency as interviewer or interviewee, at no disadvantage to <del>native other</del> speakers.
	SOCIOLINGUISTIC APPROPRIATENESS
<b>C2</b>	Appreciates <b>virtually all</b> the sociolinguistic and sociocultural implications of language used by <del>native</del> <b>proficient speakers of the target language</b> and can react accordingly.
<b>B2</b>	Can sustain relationships with <b>speakers of the target language</b> <del>native speakers</del> without unintentionally amusing or irritating them or requiring them to behave other than they would with another <del>native</del> <b>proficient</b> speaker.

	SPOKEN FLUENCY
<b>B2</b>	Can interact with a degree of fluency and spontaneity that makes regular interaction with <b>speakers of the target language</b> <del>native-speakers</del> quite possible without imposing strain on either party.

他にも様々な修正があります。そのうちの1つが、Cレベルの記述の充実および修正です。とりわけ、2001年版のC2レベルのディスクリプタは、「青天井」のような記述になっていましたが、今回の改訂では、これらが現実的に到達可能な記述に変わっている。たとえば、OVERALL LISTENING COMPREHENSIONでは、Has no difficulty with any kind of spoken language ...という記述は、Can understand with ease virtually any kind of spoken language となっています。このディスクリプタはいわゆる Can Do の形式を取っていませんでしたが、この点も修正されています。

これに対して、下のレベルでは、Pre-A1 という新しいレベルが追加されるとともに、A1レベルのディスクリプタの充実が図られています。Pre-A1のディスクリプタは、小学校と中学校をターゲットにした the Swiss Lingualevel project と the Japanese CEFR-J project に基づいたとされています。

プラス・レベルが強化されたこともインパクトがあるでしょう。これは CEFR-J などでも採用されている branching という考えに基づくものです。例示的なディスクリプタでは、基準レベルとプラス・レベルが区別されます。プラス・レベルを採用している場合は、基準レベルが A2、プラス・レベルが A2+ となり、そうでない場合は、CEFR-J のように、それぞれ A2.1 と A2.2 のようになります。

本家の方でこれらの修正が入った時、それをベースに作っている CEFR-J はそれに応じた修正をどこまで行うのか、今後検討が必要でしょう。

## 2.2. Mediation の尺度化

Mediation（媒介）というのは、通訳とか翻訳ということでしたが、2001年版には言及はあるものの、そのディスクリプタはありませんでした。Mediation は、Reception と Interaction と Production を補完する第4の言語活動であるとし、“The language learner/user's communicative language competence is activated in the performance of the various language activities, involving reception, production, interaction or mediation (in particular interpreting or translating).” (Council of Europe, 2001: 14)と言及され、次のように説明されています。

“In both the receptive and productive modes, the written and/or oral activities of mediation make communication possible between persons who are unable, for whatever reason to communicate with each other directly. Translation or interpretation, a paraphrase, summary or record, provides for a third party a (re)formulation of a source text to which this third party does not have direct access. Mediation language activities, (re)processing an existing text, occupy an important place in the normal linguistic functioning of our societies.” (Council of Europe 2001: 14)

Council of Europe (2001, 87)には、Mediating activities and strategies として、以下のようなものが挙げられています。

### 4.4.4.1 oral mediation:

- ・ simultaneous interpretation (conferences, meetings, formal speeches, etc.);
- ・ consecutive interpretation (speeches of welcome, guided tours, etc.);
- ・ informal interpretation:

- ・ of foreign visitors in own country
- ・ of native speakers when abroad
- ・ in social and transactional situations for friends, family, clients, foreign guests, etc.
- ・ of signs, menus, notices, etc.

#### 4.4.4.2 written mediation:

- ・ exact translation (e.g. of contracts, legal and scientific texts, etc.);
- ・ literary translation (novels, drama, poetry, libretti, etc.);
- ・ summarising gist (newspaper and magazine articles, etc.) within L2 or between L1 and L2;
- ・ paraphrasing (specialised texts for lay persons, etc.).

以下の図からは、Mediation が Reception から Production につながっていることがわかります。今回の改訂では、大規模調査の結果に基づいて尺度化されたディスクリプタが提示されています。

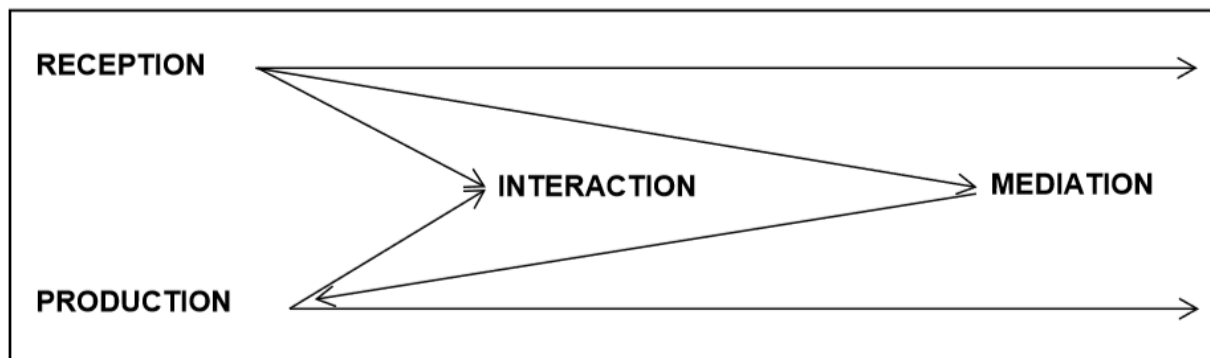


図 1. The relationship between reception, production, interaction and mediation (Council of Europe, 2017; 32)

おそらくいくつかのプロジェクトが並行的に行われていましたが、私が理解する限りでは Mediation のプロジェクトが一番大きく、世界の多くの人たちが参加しました。Council of Europe 主導で Mediation のディスクリプタを開発し、Brian North 博士が中心となって、尺度化を行いました。これは 2013 年から 2016 年までのプロジェクトです。この尺度化には、彼の博士論文とほぼ同じ手法が用いられています。

色々なディスクリプタをかなりシステムティックに作成して、それらを調査・分析しています。私たちも参加した、このプロジェクトについて具体的に紹介します。全体的な流れは以下の通りです。

Between February and November 2015 these descriptors were then subjected to a validation process organised in three phases:

Phase 1: allocating descriptors to categories

Phase 2: assigning descriptors to CEFR levels

Phase 3: rating a person's ability to perform what is described by a descriptor

まず、Mediation のディスクリプタが送られてきました。フェーズ 1 のタスクは、それらをカテゴリーに分けるというものでした。フェーズ 1 は、具体的には次のような作業から成り立っています。

#### Phase 1

Step 1: Tick in one column only (i.e. for a category, or for “Can’t Decide” or “Drop this descriptor”), referring to the Descriptor Sheet. Pay attention to the item numbers!!

If you tick “Drop this descriptor,” proceed to the next descriptor. Do not do Step 2 in this case. If you tick “Can’t decide” you may still do Step 2 if you wish.

Step 2: Judge the quality of the descriptor. Tick Y/N (=Yes or No) in the column for each of the three criteria accordingly.

Step 3: (Optional): If you want to suggest changes to a descriptor, write these directly on the Descriptor Sheet, put your name on the sheet and return it to the coordinator.

Mediation だけでも、これだけたくさんの種類を作って、分類しています。私たちは 12 人で、6 組のペアになって、分類作業を行いました。用いられたカテゴリーは、以下の通りです。

表 2. Categories for Descriptor Scales (North, 2016; 134-5)

<b>MEDIATION ACTIVITIES</b>	
<b>Relational Mediation (spoken)</b>	
- Establishing a positive atmosphere	
- Creating pluricultural space	Added after Phase 2
- Facilitating collaborative interaction with peers	
- Managing interaction in plenary and in groups	
- Resolving delicate situations and disputes	
<b>Cognitive Mediation</b>	
<b>Constructing meaning (spoken)</b>	
- Collaborating to construct meaning	
- Generating conceptual talk	Added after Phase 1
<b>Conveying received meaning (written)</b>	
- Relaying specific information	
- Explaining data (e.g. in graphs, diagrams, charts etc.)	
- Processing	
- Translating	
<b>MEDIATION STRATEGIES</b>	
- Linking to previous knowledge	
- Amplifying text	
- Streamlining text	
<i>Restructuring text (in appropriate discourse culture)</i>	Dropped after Phase 1
- Breaking down complicated information	Added after Phase 1
- Visually representing information	
- Adjusting language	
<b>OTHER NEW SCALES CREATED</b>	
- Online conversation and discussion	
- Goal-oriented online transactions and collaboration	
- Expressing a personal response to literature and art	
- Analysis and criticism of literature and art	
- Exploiting pluricultural repertoire in intercultural encounters	

- Plurilingual comprehension	Added after Phase 3
- Exploiting plurilingual repertoire	
<b>EXISTING SCALES – EXTENSIVELY REVISED</b>	
- Receptive strategies: identifying cues and inferring	Added after Phase 3
- Phonological Control	Added after Phase 3
- Sound recognition and articulation	
- Prosodic features (stress, rhythm and intonation)	
<b>OTHER NEW SCALES CREATED</b>	

カテゴリーごとに分けた後、フェーズ2では、それらをCEFRのレベルに割り振るという作業を行いました。これはかなりの作業量で、二日かかりでした。結果を送った後、しばらくして、フェーズ3の資料が送られてきました。最終フェーズでは、自分自身またはだれかよく知っている人を思い浮かべ、その人がそれぞれのCan Doができるかどうかをそのスケールでチェックしました。これが、Can Do ディスクリプタの尺度化に必要なデータになります。さらに、それぞれのディスクリプタの善し悪しについてのコメントや改善案も求められました。

### 3. 新たな言語能力記述項目

CEFRのディスクリプタの修正の他に、新たに加わったディスクリプタもあります。次の表はMULTIMODAL CONVERSATION AND DISCUSSIONとありますが、中身は、online discussionやonline conversationやonline postingsという用語が散見されるように、インターネット上の言語使用に関するディスクリプタです。Multimodalとあるのは、これらの言語使用場面においては、話す・書く・聞く・読むという複数のモードが関わっているためです。具体的には、SNSなどで、誰かのメッセージを読んだり、自分でメッセージを書き込んだりすることがあるでしょう。また、Skypeなどでは、相手を画面に見ながら口頭でやり取りすることもあります。これらの言語活動は、多くの人々に今日なじみのあるものでしょう。その多様な言語活動が整理され、困難度に応じて尺度化されているのは、とても興味深いと思います。

表 3. Appendix 9 – Supplementary descriptors (Council of Europe, 2017: 223)

### Individual Descriptors

MULTIMODAL CONVERSATION AND DISCUSSION	
<b>C2</b>	Can use with precision colloquialisms, humorous language, idiomatic abbreviations and/or specialised register to enhance the impact of comments made in an online discussion.
<b>C1</b>	Can express his/her ideas and opinions with precision in an online discussion on a complex subject or specialised topic related to his/her field, presenting and responding to complex lines of argument convincingly. Can critically evaluate online comments and express negative reactions diplomatically.
<b>B2+</b>	Can exploit different online environments to initiate and maintain relationships, using language fluently to share experiences and develop the interaction by asking appropriate questions.
<b>B2</b>	Can develop an argument in an online discussion giving reasons for or against a particular point of view, though some contributions may appear repetitive. Can express degrees of emotion in personal online postings, highlighting the personal significance of events and experiences and responding flexibly to further comments. Can repair possible misunderstanding in an online discussion with an appropriate response.
<b>B1</b>	Can initiate, maintain and close simple online conversations on topics that are familiar to him/her, though with some pauses for real-time responses.
<b>A2</b>	Can post online how he/she is feeling or what he/she is doing, using formulaic expressions, and respond to further comments with simple thanks or apology.
<b>Pre-A1</b>	Can establish basic social contact online by using the simplest everyday polite forms of greetings and farewells.

#### 4. 新たな言語能力記述項目

CEFR の主要概念の 1 つに、「プロファイリング」の概念というものがあります。レベルは学習の進度を把握するのに必要な単純化ですが、これは複雑なプロフィールを隠してしまいます。CEFR に数多くのディスクリプタがあるのは、異なるプロフィールを作成するためでもあります。学習者のニーズは多様で、その到達度も多様なはずで、この点に関して、Council of Europe (2017: 36)では、次のように書かれています。

We need levels in order to organise learning, to track progress and to answer questions like *How good is your French?* or *What proficiency should we require from candidates?* However, any simple answer like B2 – or even B2 receptive, B1 productive – hides a complex profile. The reason the CEFR includes so many descriptor scales is to encourage users to develop differentiated profiles. Descriptor scales can be used firstly to identify which language activities are relevant for a particular group of learners and then secondly to establish which level those learners need to achieve in those activities in order to accomplish their goals.

プロファイリングについては 2001 年版でも言及はありましたが、今回の改訂では、この記述がさらに充実し、より具体的になっています。プロファイリングについては、2 つの図を用いて、説明されています。これらは、2 つの架空の例です。1 つは、lower secondary CLIL (Content and Language Integrated Learning)であり、もう 1 つは、postgraduate natural sciences です。2 つの図の中の 4 つの形は受容・やり取り・発表・媒介をそれぞれ表しています。円の周りのラベルは、関連性があると考えられるディスク



リプタの尺度であり、各ディスクリプタの尺度で望ましいと思われる熟達度は陰で示されています。2つの図に含まれるディスクリプタの尺度は同一ではありません。関連性があると考えられる活動だけが含まれています。このようなプロファイルは、集中的な「特定の目的のための言語 (LSP)」訓練の文脈において、個人向けに作成されるものかもしれませんが、この手法は、特定のグループの学習者のニーズを分析するのにもとても有益であるとしています。

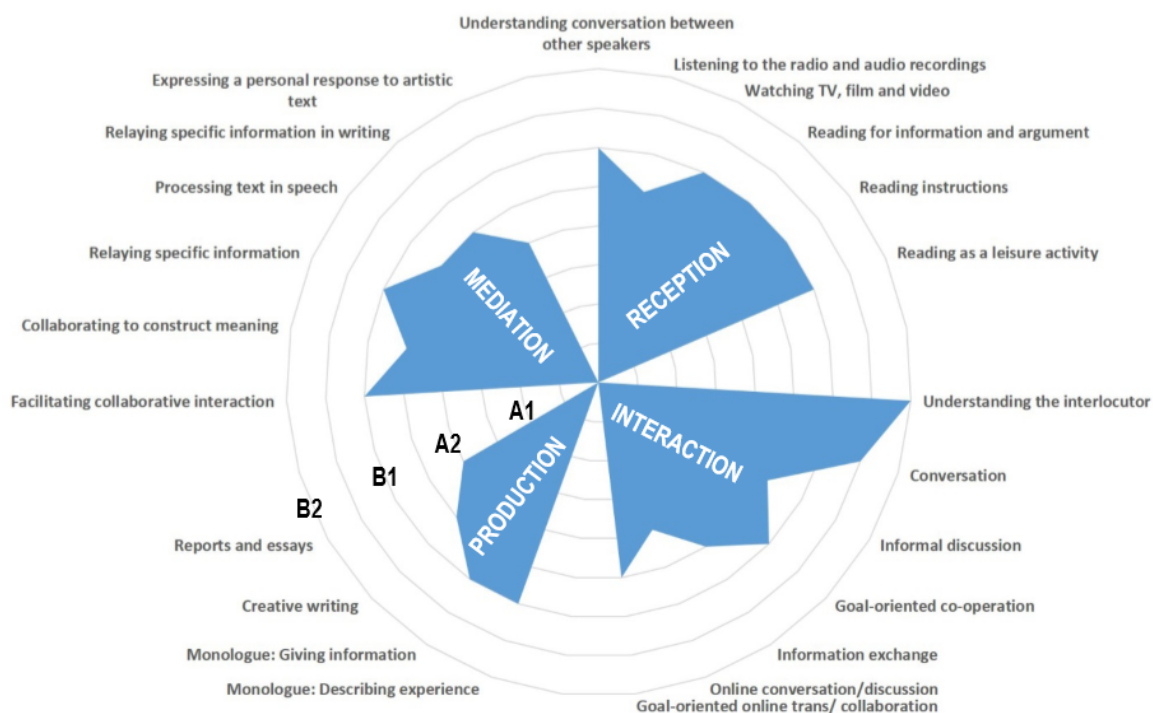


図 2. A fictional profile of needs in an additional language – lower secondary CLIL (Content and Language Integrated Learning) (Council of Europe, 2017: 37)

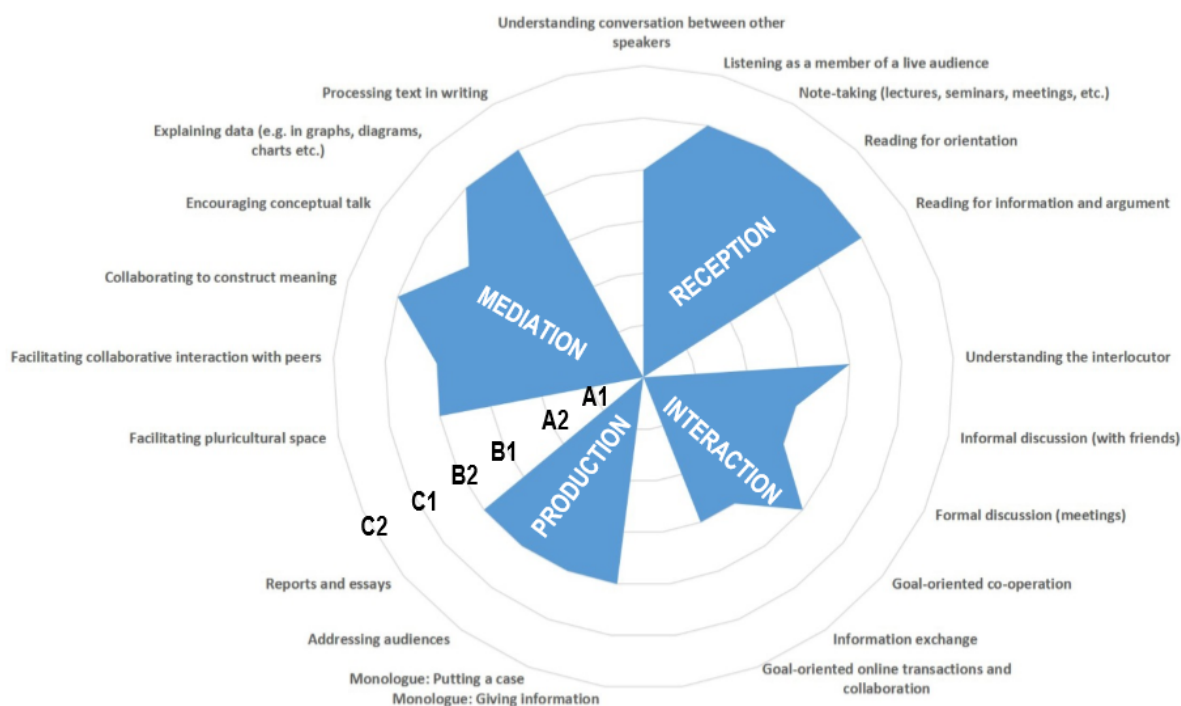


図 3. A profile of needs in an additional language – postgraduate natural sciences (Fictional)  
(Council of Europe, 2017: 38)

大学入試改革の議論では、CEFR の利用が話題となっています。しかし、その議論の中心は、CEFR のレベルを利用したテスト得点の比較に終始しています。CEFR の特徴である、Can Do ディスクリプタによる学習到達度のプロファイリング的な捉えという CEFR の理念に今一度立ち返ることが重要ではないでしょうか。

#### 参考文献

欧文

Council of Europe. 2001. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, teaching, assessment*. Cambridge University Press.

Council of Europe. 2017. *Common European Framework of Reference for Languages: Learning, Teaching, Assessment: Companion Volume with New Descriptors Provisional Edition*.

<https://rm.coe.int/common-europe-an-framework-of-reference-for-lan-guages-learning-teaching/168074a4e2>

North, B. 2016. Developing CEFR illustrative descriptors of aspects of mediation. *International Online Journal of Education and Teaching/ISSN: 2148-225X*, 3(2), 132-140.

和文

投野由紀夫. 2013. 『CAN-DO リスト作成・活用 英語到達度指標 CEFR-J ガイドブック』. 大修館書店.

執筆者連絡先: negishi@tufs.ac.jp

本稿は科学研究費助成事業基盤研究 (B)「アジア諸語の社会・文化的多様性を考慮した通言語的言語能力達成度評価法の総合的研究」(2015年度-2017年度、研究代表者富盛伸夫、研究課題/領域番号 15H03224) の研究成果のひとつとして公開するものである。